

令和5(2023)年度 病害虫発生予報 第12号

令和6(2024)年3月15日
栃木県農業環境指導センター

気温の上昇に伴う病害虫の発生増加に備えましょう。

予想期間 3月下旬～4月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない(ほ場率：平年比33%、株率：平年比50%)。(一～±)
・ 向こう1か月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並かやや多い見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・ 多湿条件において発生しやすいので、下葉を除去し株元の風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。
・ 発病した葉、果実、果梗等は伝染源となるため、速やかに取り除き施設外で処分する。
・ 発生状況に応じてショウチノスケフロアブル(RACコードF:U13, F:9)等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [灰色かび病薬剤感受性検定結果①、②](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 いちご アブラムシ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い(ほ場率：平年比100%、株率：平年比333%)。(±～+)
・ 向こう1か月の気温はほぼ平年並で、日照時間は平年並かやや少ない見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・ 発生初期のうちに、ウララ DF(I:29)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
・ 施設内外の雑草は増殖源となるので除草する。

3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや少ない**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない(ほ場率：平年比28%、株率：平年比30%)。(一～±)
・ 向こう1か月の気温はほぼ平年並で、日照時間は平年並かやや少ない見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・ 天敵導入ほ場では、ハダニ類の生息状況をよく観察し、必要に応じて追加放飼を検討する。
・ 化学農薬に対する感受性低下が起りやすいため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- (4) 備 考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

4 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(ほ場率：平年比60%、花率：平年比78%)。(一～±)
・ 向こう1か月の気温はほぼ平年並で、日照時間は平年並かやや少ない見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ 低密度のうちにカウンター乳剤(I:15)等のIGR剤を散布する。
・ 観察した花の1割以上にアザミウマ類の寄生が見られる場合は、速やかにディアナ SC(I:5、カブリダニ等の天敵に影響が大きいので注意する)等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [防除のポイントNo.19、アザミウマ薬剤感受性検定結果①、②](#)を当センターHPに掲載中。

5 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(ほ場率：平年比70%、株率：平年比65%)。(±)
・ 向こう1か月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並かやや多い見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・ 多湿条件において発生しやすいので、施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、結露防止に努める。
・ 発病した葉、果実、花卉等は伝染源となるため、速やかに取り除き施設外で処分する。
・ 発生状況に応じてセイビアーフロアブル20(F:12)等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [灰色かび病薬剤感受性検定結果①、②](#)を当センターHPに掲載中。

6 トマト 黄化葉巻病 (TYLCV、タバココナジラミが媒介)

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 掘 ・ 現在の発生量が多い (ほ場率：平年比 194%、株率：平年比 200%)。(+)
・ 向こう 1 か月の気温はほぼ平年並で、日照時間は平年並かやや少ない見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ 黄色粘着板を設置し、コナジラミ類の誘殺が見られた際にアニキ乳剤 (I:6) 等を散布する。
・ 発病株は耐病性品種であっても伝染源となるので、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
- (4) 備 考 ・ [防除のポイントNo.22](#)、[タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。
・ タバココナジラミは黄化葉巻病 (TYLCV) だけでなく黄化病 (ToCV) も媒介するため、適正な防除を行う。

7 たまねぎ ベと病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 掘 ・ 現在の発生量は平年並 (ほ場率：平年比 40%、株率：平年比 600%) (±)
・ 向こう 1 か月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並かやや多い見込み。(±~+)
- (3) 対 策 ・ 雨水が停滞すると発生しやすくなるので、ほ場の排水をよくする。
・ 発病株は速やかに抜き取り、ポリ袋等に入れほ場外に持ち出し、適切に処分する。
・ 予防を主体にジマンダイセン水和剤 (F:M3) 等を散布する。発生が見られる場合は、オロンディスウルトラ SC (F:49, F:40) 等を散布する。曇雨天が続くと予想される場合には、降雨前に薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・ 気温 15°C 前後で雨が多いと発生が多くなりやすい。
・ [植物防疫速報 No. 11](#) を当センターHP に掲載中。

8 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
きゅうり	うどんこ病	平年並	やや多	トマト	葉かび病	やや少	平年並
	べと病	やや多	多	きく	アザミウマ類	平年並	平年並
	コナジラミ類	やや多	やや多		ハダニ類	平年並	平年並

○水稲の種子伝染性病害の対策について

種子消毒を適切に行い、使用する床土や育苗箱、育苗器などの育苗資材・器具もしっかり消毒することで、苗立枯病や種子伝染性病害の発生を防止しましょう。

近年、特に育苗期間中の高温が原因と考えられる病害 (もみ枯細菌病、苗立枯細菌病など) の発生が多くなっていますので、育苗ハウスなどの適正な温湿度管理にも留意しましょう。

○麦類赤かび病

赤かび病は予防が重要です。出穂や開花の状況をよく観察して、適期に赤かび病防除を行いましょう。

○ナシ黒星病の春期防除を徹底しましょう

本年の幸水の開花始めは平年より 4 日早く、昨年より 5 日遅い予想となっています。黒星病の第一次伝染時期であるりん片脱落期から開花後は最重要防除期です。果そう基部病斑 (芽基部病斑) の摘み取りを徹底し、2 分咲きから落花直後に予防効果の高い DMI 剤を散布しましょう。[ナシ黒星病菌の簡易薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。

農業は適正に使用しましょう

- 農薬は、容器のラベルをよく読んで適正に使用し、農薬の飛散 (ドリフト) にも注意しましょう。
- 花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。
- 薬剤防除では、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

1 か月気象予報 (予報期間 3 月 16 日から 4 月 15 日 3 月 14 日気象庁発表)

向こう 1 か月の気温はほぼ平年並でしょう。低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるため、向こう 1 か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)

項目	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	30	40
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

詳しくは農業環境指導センター（Tel 028-626-3086、028-665-1244）までお問合せください。病虫害情報発表のお知らせはX（旧ツイッター）「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g64/index.html>) でもご覧になれます。



農業環境指導センター移転のお知らせ

農業環境指導センターは組織改編の一環で農業試験場と統合し、令和6年4月1日から「**農業総合研究センター**」となります。

連絡先（令和6年3月25日以降）

住 所：農業総合研究センター 宇都宮市瓦谷町1080（現農業試験場）

電話番号：環境技術指導部 検査指導課 028-665-1243

防除課 028-665-1244